

## 日本臨床検査医学会 2016年度 第4回理事会 議事録

日 時：2016年12月24日（土）13：30～16：00

場 所：日本臨床検査医学会事務所

出 席：矢富 裕 理事長、山田俊幸 副理事長、村上正巳 総務理事、諏訪部 章 会計理事、東條尚子 庶務理事、  
前川真人、小柴賢洋、宮地勇人、メ谷直人、木村 聡、戸塚 実、柴田綾子、下 正宗、清水 力、本田孝行、  
通山 薫 各理事

尾崎由基男、高木 康（JCCLS 連絡委員兼務） 各監事（18名）

欠 席：賀来満夫、石井潤一、一山 智、岡山昭彦 理事（4名）

会に先立ち、矢富裕理事長から挨拶があり、木村 聡 理事、通山 薫 理事を 議事録署名人に定めて理事会の議事を進めた。

### I 報告事項

#### 1. 支部報告

各支部報告の2016～2017年度の支部例会・総会・地方会の開催および活動報告、予定等について報告された。

### II 各種委員会報告

#### 1) 学術推進化委員会（前川真人 担当理事）

第63回学術集會中の9月3日（土）に神戸国際会議場にて委員会を開催した。学術推進プロジェクト研究の募集方法、評価重点項目の検討内容、学術推進プロジェクト研究課題の選考の変更 {平成30年より資金を600万円/2年間（300万円/1年）に上げ、1課題100万/2年とし毎年3課題を採択する案を理事会に提案すること}、学術集會の一般演題抄録から学会若手賞を設立することを検討したことが報告された。

#### 2) 編集委員会（村上正巳 担当理事）

11月28日（月）に学会事務局で編集委員会を開催した。学術集會抄録（CD-R版）への問い合わせに対する対応、研究倫理教育における編集委員会の関与、学術集會時の座長推薦論文、論文投稿の採択率をホームページに掲載すること、トピックスのテーマ、投稿原稿の審査進捗状況の確認等について報告された。

#### 3) 教育委員会（本田孝行 委員長 山田俊幸 担当理事）

第63回学術集會中の9月3日（土）に神戸国際会議場にて委員会を、臨床検査専門医会教育研修委員会と合同開催した。

教育委員会をe-learning + RCPC、Catch up セミナー、若手医師・女性医師の会の3つの部門に分けて活動していくこと、e-learning ホームページの開設、RCPC研修と実施するうえでの問題点と解決策、第64回学術集會での委員会主催講演会、女性・若手の会のサポートについて、他領域専門医用の専門研修カリキュラムの作成等について報告された。

#### 4) 臨床検査点数委員会（東條尚子 担当理事）

第63回学術集會中の9月2日（金）に神戸国際会議場にて臨床検査専門医会保険点数委員会と合同で委員会を開催した。供給停止予定の体外診断用医薬品の検討、内科系学会社会保険連合・第119回例会、臨床検査振興協議会活動、平成30年度診療報酬改定に関するアンケート調査結果の報告がなされ、12月10日、内保連へ提出期日である平成30年度診療報酬改定提案項目について審議したこと等が報告された。

#### 5) 標準化委員会（前川真人 担当理事）

第63回学術集會中の9月2日（金）に神戸ポートピアホテルにて委員会を開催した。2018年に予定されるIFCCによる甲状腺検査の世界標準化にあわせ、昨年のTSH値の国内でのハーモナイゼーションに続き、基準値の標準化について協議されたことが報告された。

#### 6) 精度管理委員会（宮地勇人 担当理事）

検査自動化学会大会中の9月23日（金）にパシフィコ横浜にて委員会を開催した。CGIより2016年度外部精度管理調査活動経過報告があった。IVD グローバルニュースの在り方、制作方法の検討を行ったこと、精度管理委

員会規則について検討したこと、今後、委員会は、CGI が主導するのではなく委員長が主導し、学会事務所で開催することとなったこと等が報告された。

#### 7) EBLM 委員会（小柴賢洋 担当理事）

第 63 回学術集会での教育セミナーで、「検査診断学に必要なデータ解析の極意」をテーマとして、初級編「逆引き EXCEL を用いたデータ編集の極意」、中級編「多重ロジスティック回帰分析の極意」の内容としたこと、EBLM 関連研究として、パネル血清で測定値の調和化を確保し、多施設共同で症例別疾患データベースを構築するプロジェクトを実施すること、第 64 回学術集会でのシンポジウム企画を検討したこと等が報告された。

#### 8) 倫理委員会（通山薫 委員長 諏訪部章 担当理事）

「臨床検査を終了した残存検体（既存試料）の業務、教育、研究のための使用」改訂案の策定中であること、「日本医学会連合研究倫理委員会提言(案)・28 年 9 月作成」へのコメントをまとめて理事会へ答申し回答したこと、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」改正案（28 年 9 月作成）へのコメントをまとめて理事会へ答申しパブコメとして提出したことが報告された。

#### 9) 利益相反委員会（諏訪部章 担当理事）

役員・委員に対する COI 自己申告書の提出を理事長および事務局に依頼したこと、日本医学会から、COI 管理ガイドライン改定案、診療ガイドライン策定参加資格基準ガイダンス、日本医学雑誌編集者組織委員会・日本医学会利益相反委員会・日本医学会連合研究倫理委員会の共同提案について意見を求められたため検討中であることが報告された。

#### 10) ガイドライン作成委員会（東條尚子 担当理事）

第 63 回学術集会中の年 9 月 1 日（金）に神戸国際会議場で委員会を開催した。副委員長として引き続き、吉田博先生（東京慈恵医大）を選出したこと、未定であった腎臓・尿路分野委員として木村秀樹先生（福井大）の推薦があったこと、JCCLS フローサイトメトリーによる CD34 陽性細胞検出に関するガイドラインに関してのコメントへの対応、脂質測定に関する諸問題、測定系のベンダー対応についてコメントを作成すること、医師国家試験問題における検査単位や検査名称の表記について、是正が望ましい項目等をまとめ厚生労働省に提出する提言書を作成予定であること、臨床検査のガイドライン 2018 作成に向けて、全体的な構成は踏襲し、各方面よりのコメントに対応していく方針となったこと、ガイドライン公開の方法については、WEB での一般公開＋印刷物の販売が望ましいが、理事会で意見を求めることとなったこと等が報告された。

#### 11) 検査項目コード委員会（谷直人 担当理事）

検査項目コード委員会委員も構成委員となり、構成臨床検査項目標準マスター運用協議会（8 団体からなる）に WG を立ち上げ、JLAC10 の問題点である臨床検査データの相互運用性を解決した「臨床検査項目分類コード第 11 版（以下、JLAC11）」（案）がまとめられ、2016 年 3 月 24 日に検査項目コード委員会でも承認した。

その後、2016 年 5 月にパブリックコメントへの回答および回答を反映した JLAC11 を本会 HP に公開した。今後は、全体外診断用検査薬への付番（JLAC10/11）、JLAC11 の「臨床検査マスター」への反映、厚生労働省標準マスターとしての承認、MEDIS を核とした維持/管理体制の確立作業を厚生労働省と連携し推進予定であることが報告された。

#### 12) 臨床検査室医療評価委員会（村上正巳 委員長）

臨床検査専門医資格者在籍を ISO15189 認定要件のひとつとするため、ISO15189 認定に関する各施設の現状を把握することを目的として、ISO15189 認定施設を対象としてアンケート調査を依頼していることが報告された。

#### 13) 遺伝子委員会（前川真人 委員長 宮地勇人 担当理事）

第 63 回学術集会中、9 月 3 日（土）に神戸国際会議場にて委員会を開催した。

各委員より、遺伝子検査システムに用いる DNA シークエンサー等を製造販売する際の取扱いについて、次世代シークエンサーを用いたコンパニオン診断システムの評価方針について（案）、遺伝学的検査受託に関する倫理指針、ファーマコゲノミクス検査の運用指針を JCCLS で改定したこと、クリニカルシーケンスにおける精度管理・検査医の役割について、第 2 回クリニカルバイオバンク研究会シンポジウム、第 23 回日本遺伝子診療学会大会、2016 年ジェネティックエキスパート認定制度試験等について情報提供を行ったことが報告された。

#### 14) 国際委員会（石井潤一 委員長 村上正巳 担当理事）

第 63 回学術集會中、9 月 1 日（木）に神戸国際會議場で開催した。

2016 年度の国際学会奨励賞および参加補助金受賞者の確認がされ、第 14 回 ASCPaLM (2016 年 3 月 25～27 日台北) に宮地勇人理事、村上正巳理事が出席したこと、第 15 回 ASCPaLM は、2018 年 9 月 16～18 日、モンゴル (ウランバートル) で開催予定であること、2016 年 10 月 26 日～28 日ソウル (韓国) で開催された LMCE (Laboratory Medicine Congress & Exhibition) and KSLM (Korean Society for Laboratory Medicine) 57th Annual Meeting に宮地勇人理事が出席し、Keynote Speech を行ったことが報告された。

#### 15) チーム医療委員会 (諏訪部章 委員長 柴田綾子 担当理事)

第 63 回学術集會中、9 月 3 日（土）に神戸国際會議場で委員会を開催した。

2017・2018 年度委員に確認をしたこと、学会ホームページ・委員会ページに、「臨床検査がかかわるチーム医療の理念 (概念)」、パニック値、その他チーム医療をアピールできることを盛り込んで作成すること、パニック値に関するアンケート提案があったこと、「臨床検査技師による検査説明・相談の症例 (事例) 集と検査医からのアドバイス (案)」の発行 (あるいは pdf 化し HP へアップ) を進めること、第 64 回学術集會 (京都) における委員会企画シンポジウムについて検討したこと、「看護師による子宮がん検診の細胞採取」に関して検討したことが報告された。

#### 16) 学術集會企画委員会報告 (木村 聡 担当理事)

第 63 回学術集會中の 9 月 1 日（木）に委員会を開催した。

本委員会は 2018、2019、2020 年度の学術集會を対象とし、「学会委員会企画」「他団体との共催企画」「専門医関連企画」、その他 (3 年間連続すべき企画などを、立案、集約し学術集會長に提案する基本方針を確認し、委員の役割分担を行ったこと、3 年間連続して行うテーマと演者・特別企画の提案、委員会へ学術集會でのシンポジウム等の企画予定アンケート、評議員へ学術集會企画に関するアンケートを実施したことが報告された。

#### 17) ワークライフバランス委員会 (山田俊幸 担当理事)

2017 年 5～6 月、8～9 月の日曜日午後、東京大学にて 10 名定員に、医学生・研修医のための臨床検査ハンズオンセミナー (仮) を検討していることが報告された。

#### 12) 熊本地震対策委員会 (谷直人 委員長・担当理事)

来春発行にむけて記録集を作成中であることが報告された。

#### 3. 第 63 回学術集會報告 (神戸 2016/9/1(木)～9/4(日)) (小柴賢洋 会長)

2016 年 9 月 1 日(木)～4 日(日)に神戸国際會議場において、IFBLS2016 (第 32 回世界医学検査学会)、第 65 回日本医学検査学会、第 11 回日本臨床検査学教育学会と同時期開催で、メインテーマは「Challenge」(医学検査学会と共通)、サブテーマは「臨床検査の連携・協働」として開催されたこと、参加人数概要 (事前登録: 457 名、当日: 445 名、情報交換会: 89 名)、今後、会計収支をまとめる予定であることが報告された。

#### 5. 第 64 回学術集會報告 (京都 2017/11/15(水)～19(日)) (村上正巳 会長)

2017 年 11 月 16 日 (木) ～19 日 (日) に、国立京都国際會館 (京都) において、テーマ「次世代の医療の進歩への貢献」(Contribution to Medical Innovation of the Next-Generation) として第 64 回学術集會を、11 月 15 日 (水) ～18 日 (土) に第 29 回世界病理学・臨床検査医学会連合會議 (The 29th World Congress of World Association of Pathology and Laboratory Medicine (WASPaLM)) を合同會議として開催予定であること、組織委員会委員、現時点の第 64 回学術集會と第 29 回 WASPaLM 會議の特別講演、教育講演、シンポジウム、共催シンポジウム、参加費、運営事務局はコングレが担当することについて報告された。

#### 5. 第 65 回学術集會報告 (東京 2018/11/15(木)～11/18(日)) (東條尚子 庶務理事)

2018 年 11 月 15 日 (木) ～11 月 18 日 (日) に、京王プラザホテル (東京) において、村田満会長 (慶應大) のもと、開催予定であることが報告された。

#### 6. 標準化委員会甲状腺関連検査国際標準化への対応を目的とした専門部会の設置について (前川真人 担当理事)

標準化委員会内に、IFCC で進んでいる甲状腺関連検査の国際標準化に対して、国内で対応が必須となり、企業メンバーを専門部会としたことが報告された。

#### 7. HP パナー広告案内について (矢富 裕 理事長、諏訪部章 会計理事)

第3回理事会（8/20）にて、承認されていたバナー広告について、前理事会で指摘のあった価格の値下げをしたうえで、12月22日に賛助会員にバナー広告の依頼をしたことが報告され、理事にも協力依頼がなされた。

#### 8. 本学会からの関連団体委員推薦について（更新）（矢富 裕 理事長）

前回、理事会8月20日以降の当会からの派遣委員等について報告された。

##### ①日本専門医機構

「基本領域連携委員会」 委員：矢富裕先生

「基本領域専門医委員会」 委員：木村聡先生

「基本領域研修委員会」 委員：山田俊幸先生

任期：平成28年10月5日～平成30年6月新委員が選出されるまで。

##### ②臨床検査振興協議会（2016/10/17に推薦）

「臨床検査の品質・精度管理に関する小委員会」 委員：宮地勇人先生

「在宅医療における臨床検査の小委員会」 委員：小谷和彦先生（継続）

「広報委員会」 委員：小柴賢洋先生、木村聡先生

##### ③大学改革支援・学位授与機構（2016/12/6に推薦）

「機関別認証評価委員会」 専門委員村田満先生、渡邊卓先生

##### ④日本臨床検査同学院（2017/3/25～の理事について）

派遣理事 継続：宮地勇人先生（副理事長）、メ谷直人先生

新規：東條尚子先生

監事 継続：矢富裕先生（理事長）

遺伝子分析科学認定士関連団体審議会委員 継続：横田浩充先生

##### ⑤内保連・外保連合同内視鏡委員会委員（2016/12/20に推薦）

委員 古川泰司先生

#### 9. 定時社員総会・講演会について（矢富裕 理事長）

2017年3月26日（日）、東京大学鉄門記念講堂にて、2016年度に係る定時社員総会、また講演会を行う予定である。社員総会では、例年の報告事項、決議事項に加えて、希望する委員会にはスライド等を使用した報告を行っていただく。講演会の演者は、登壇日本臨床検査専門医会会長、宮島喜文日本臨床衛生検査技師会会長、司会は、名誉会員の渡辺清明先生、宮澤幸久先生にお願いしたことが報告された。

#### 10. 文部科学省からの医学教育モデル・コア・カリキュラムに係る意見照会について（矢富 裕 理事長、山田俊幸 教育担当理事）

評議員から意見募集（締切12/26）し、それらの意見も参考にして最終的には教育委員会でまとめ2017年1月12日の締切までに、文部科学省に意見を提出する予定であることが報告された。

#### 11. その他

##### ①日本医学会分科会における研究倫理教育3委員会共同提案へのコメントについて（矢富 裕 理事長）

日本医学会から要請があった標記について、年内に、編集委員会、倫理委員会、利益相反委員会よりコメントを求め、常任理事でとりまとめ、理事にメールで確認のうえ日本医学会へ意見を提出する予定であることが報告された。

##### ②日本医学会分科会用語委員会においての日本小児科学会からの提案について（東條尚子 日本医学会用語委員）

日本小児科学会より、1)「奇形」を含む医学用語の置き換えの提案についての意見、2)日本小児科学会とともに、この問題の審議に直接加わるかどうかの意向について、日本医学会を通じて問合せがあった。

本学会としては、「奇形」を含む医学用語の置き換えの提案については、妥当な意見であるが、この問題の審議に直接加わる必要はないものと報告され、この内容で回答予定であることが報告された。

##### ③各支部への確認事項について（東條尚子 庶務理事）

各支部への依頼事項として、支部総会、例会のプログラムが決定したら、臨床病理誌とHP掲載へのため、掲載内

容を事務局まで送付いただくこと、支部での総会、例会終了後に参加者名簿データを学会事務局に送付いただくことの再確認がなされた。

### Ⅲ 審議事項

#### 1. 定款の改定について（東條尚子 会則改定委員会 委員長、〆谷直人 担当理事）

日本臨床検査同学院の資格認定に係る同学院と本学会の規定等の整合性のため、本学会定款の第1章総則、(事業) (4)の改定案、名誉会員および功労会員の称号は終身称号とする改定案が提案され、承認された。

#### 2. 名誉会員推薦に関する運用規則について（東條尚子 会則改定委員会委員長、〆谷直人 担当理事）

本学会名誉会員推薦のための資格に関する申し合せ事項を運用規則として規定する提案がなされ、承認された。

#### 3. 臨床検査士資格認定制度運用規則について（東條尚子 会則改定委員会委員長、〆谷直人 担当理事）

日本臨床検査医学会、日本臨床検査同学院の共催で臨床検査士等に関する認定試験を実施しているため、定款の改定を行うことに伴い、臨床検査士資格認定制度運用規則を定めること、その規則(案)が提案され、承認された。なお、認定事業の共催についての歴史認識を共有する必要があるとの意見があった。

#### 4. 選挙管理委員会の設置について（矢富 裕 理事長）

2017年度(2018・2019理事、2018・2019・2020・2021監事)の選挙のため、選挙管理委員会委員として、高木康 監事 東條尚子、宮地勇人、〆谷直人、木村聡 各理事が指名され、承認された。

#### 5. 新専門医制度研修プログラム認定委員会、新専門医制度更新資格審査委員会の設置について（山田俊幸 専門医担当理事）

日本専門医機構では各領域の専門医委員会と研修委員会を任期終了として継続しないため、研修プログラム、専門医認定試験、更新の一次審査等のため学会内で委員会を設置する必要があるため、新専門医制度研修プログラム認定委員会、新専門医制度更新資格審査委員会の設置と、これまでの委員が継続することが提案され、承認された。

#### 6. 第30回日本医学会総会2019中部での第11回特別例会長の推薦依頼について（矢富 裕 理事長）

2019年4月27日～29日に、名古屋国際会議場での第30回日本医学会総会2019中部の開催と併せ、第11回日本臨床検査医学会特別例会開催のため、開催地である東海・北陸支部に特別例会長の推薦を依頼する提案があり、承認された。

#### 7. 評議員の再任について（2017/01/01付）（矢富 裕 理事長）

2017年1月1日付での評議員再任対象者52名について、48名から申請書類が提出され再任単位を満たしており承認、3名からは評議員辞退の連絡があり理由を確認したが致し方ないと承認、未提出者1名、評議員(社員)再任の意志と取得単位について該当の支部より再確認することとなった午前に開催された評議員審査委員会での審査結果が報告され、承認された。

再任の意思と単位未確認の1名の当該支部に確認依頼がされた。

#### 8. 新専門医制度について（山田俊幸 副理事長、専門医担当）

##### 1) 日本専門医機構 専門医制度新整備指針について

2016年12月16日開催の日本専門医機構社員総会で、専門医制度整備指針が承認された。以前は標準化を厳格に目指していたが、新しい指針は柔軟になっており、学会は学術的な面から責任をもって制度設計を行い、機構はチェック、専門医の地域偏在防止等を勘案のうえ調整し学会をサポートする。専門研修の形態を「プログラム制」と「カリキュラム制」に分け、基本領域は「プログラム制」を原則とするが、各領域の事情によっては、「カリキュラム制」を可能とする。ダブルボードを妨げない等が主な内容であることが報告され、確認された。

##### 2) 臨床検査領域専門研修プログラム改訂版(案)について

改訂された日本専門医機構専門医制度新整備指針により、臨床検査専門研修プログラム整備基準の改訂案を検討した。

臨床検査領域は、他基本領域の専門医が臨床検査専門医を取得することが多いため、初期臨床研修修了後の専攻医には「プログラム制」を、他基本領域専門医取得者は「プログラム制」か、希望すれば「カリキュラム制」を適用できることが承認された。なお、研修登録を徹底し、評価を厳格に実施することが重要となった。

今後は、臨床検査専門研修プログラム整備基準に基づき「モデルプログラム」を改訂し、機構の承認を得て、2017年2月頃に各施設にモデルプログラムを提示し、3月末頃までに改訂した各施設プログラムの提出を求め、学会内で1次審査、機構での2次審査を経て、5～6月には専攻医に提示し、募集、採用へと進む予定の提案があり、承認された。

### 3) 臨床検査専門医 新更新基準について

臨床検査領域では、機構専門医制度を1年遅らせて、2018年1月1日付更新から導入予定であるが、「更新基準」の一部改訂が機構に承認され、変更点は次のとおりであることが報告され、確認された。

- ①「診療実績の証明」での報告書提出が困難な場合は、専門医認定試験の一部を受験し、一定の成績により代用可とする。
- ②学会専門医を含み連続3回更新した場合は、4回目以降の更新から「診療実績の証明」を他の単位で代用可とする。
- ③更新申請時に学会に審査料として1万円を納入し、更新認定された後、機構に認定料1万円を納入する。
- ④2018年1月1日付の更新者は、学会専門医更新の4/5と、直近1年の機構専門医更新の1/5の単位で更新する。
- ⑤2021年1月1日付更新までは、機構専門医か学会専門医更新の何れかを選択する。

2017年4月以降に開催される単位認定のための講習会について、日本専門医機構の方針によるため次項のとおり確認された。

- ①機構のルールに基づき、原則として（特に共通講習）学会内の1次審査、機構の2次審査を経て3か月前にHPで公開することが必要。
- ②共通講習は、他領域専門医の受講を相互に受け入れること、公開することが必要。
- ③欠席者は、e-learning受講、確認テスト受験で80%合格により受講証明取得とする予定。

### 4) e-learningについて

アイアイシステムズ、コンベンションアカデミアより見積りの提示、説明を受けた結果、日臨技も採用しており、見積額によりアイアイシステムズに依頼する提案がなされた。ただ、会社登記の都合上、CGIと関係があるため問題ではあるが、今後は、独自での登記ができれば問題はなくなると考えると補足された。

理事より見積り額が、静止画での額で動画になった場合、見積り額から上乗せがないかどうかの確認依頼があり、その確認を条件に承認された。

## 9. CGI「IVDグローバルニュース」について（矢富 裕 理事長）

臨床病理誌に同梱することについて顧問弁護士に相談したところ、これに関しては問題ないが、グローバルニュース作成、同梱に関する契約書（合意書）を、1年更新で取り交わすべきとの助言があり、CGI社に作成依頼し準備中であることが報告され、了承された。

なお、合意書については、常任理事会、顧問弁護士にて確認し、理事会に報告することとなった。

## 10. 日本腎臓学会との合同委員会について（矢富 裕 理事長）

日本腎臓学会からの依頼で、検診での臨床検査の重要性が根底にあり、日本腎臓学会と日本臨床検査医学会、両学会で情報共有、研究、啓発活動などの窓口としての機能を念頭においた合同委員会の設置について、和田隆志先生（金沢大学）を通じて提案があったことが報告され、文書到着後、あらためて、理事に相談することが了承された。

## 11. JCCLS「白血球目視分類の共用基準範囲案」への賛同依頼について（矢富 裕 理事長）

JCCLSより白血球目視分類の共用基準範囲案への賛同依頼があり、本学会役員も関わっており、的確なものであり、特に問題はなく賛同することが承認された。

## 12. 日本血栓止血学会 当学会の認定更新制度規定の関連学会の認定について（矢富 裕 理事長）

日本血栓止血学会より、日本血栓止血学会学術集会参加を臨床検査専門医更新単位とする認定依頼があり、本学会とも深い関係があり問題なしとなり、承認された。

なお、実際には、認定更新制度規定5.(2)D.のその他の関連学会に日本血栓止血学会を追加し、学術集会等の参加により単位取得可能とする。

**13. その他（東條尚子 庶務理事）**

次回以降の2017年度の理事会、定時社員総会予定が報告された。

2017年度理事会、定時社員総会日程

第1回理事会： 3月26日（日）10：00～12：30

講演会： 3月26日（日）12：55～15：00

2016年度に係わる定時社員総会：3月26日（日）15：00～17：00

第2回理事会： 9月 2日（土）13：30～16：30

第3回理事会：10月14日（土）13：30～16：30

第4回理事会：12月23日（土）13：30～16：30

**VI 閉会の挨拶（副理事長）（山田俊幸 副理事長）**

山田俊幸副理事長より閉会の言葉があり本理事会は閉会された。

以 上

議事録署名人

\_\_\_\_\_ 印

\_\_\_\_\_ 印